

2012年2月7日

【報道関係各位】

株式会社ベネッセコーポレーション
広報部

進研ゼミ高校講座「攻める宣誓プロジェクト」で、『大学進学振り返り調査』実施

高校生の半数が「夢や目標」を宣言！ 宣言をした高校生は大学受験で努力した割合が高い

株式会社ベネッセコーポレーション(社長:福島 保 本社:岡山市)の高校生向け通信講座「進研ゼミ高校講座」では、夢や目標に向けてチャレンジする高校生を応援するために、「攻める宣誓プロジェクト」を実施しています。当プロジェクトでは、高校生の進路選択のプロセスや、夢や目標を持つことの意味を明らかにするために、全国の4年制大学に通う大学生・1,500名を対象にした、インターネット調査を実施しました。

主な調査結果は以下の通りとなります。

- ① インターネット利用の増加などによって、進路選択に関する情報量は多くなっています。しかし、「自分の適性」や「つきたい職業」「学びたい専門分野」がわからないという悩みを持つ高校生は、半数を超えています。
- ② 一方で、7割を超える高校生が「夢や目標」を持ち、約半数の高校生が、「夢や目標を宣言した」と回答しています。宣言の相手は、母親が8割で、学校の友だちがそれに続きます。父親は5割強となっています。
- ③ 夢や目標を宣言した高校生は、「自分の適性」に関する悩みが少なく、大学進学に明確な理由を持っています。逆に、宣言をしていない高校生は、「自分の適性」に不安をもち、大学進学についても、「周囲の人がみな行くから」「すぐに社会に出るのが不安だから」といった回答をする割合が高いことがわかります。
- ④ 夢や目標を宣言した高校生は、受験で努力した割合が高く、大学進学時の満足度が高くなっています。明確な目標設定によるスムーズな進路選択と努力の結果、「満足だった」と感じる割合が高いものと推測されます。

大学全入時代とも言われ、学ぶことへの目標や意欲を持ちにくい状況が生まれています。そうしたなかで、一人でも多くの高校生が目標とする進路の実現に向けて挑戦することを応援するため、「進研ゼミ高校講座」では「攻める宣誓プロジェクト」を実施しています。これまでの4年間で、約6万人の高校生が目標への「攻める宣誓」を行いました。今回、プロジェクトで初めて行った「大学進学振り返り調査」の結果からは、多くの高校生が「自分の適性」がわからずに悩んでいる様子が明らかになりました。

その一方で、夢や目標を宣言した高校生は、進路選択の悩みが少なく、大学受験に努力をし、進学時の満足度が高い傾向がみられます。もともと適性に関する悩みや迷いが少ないから夢や目標をもてるとも考えられます。しかし、周囲に宣言することで目標をリアルに感じ、具体的な一歩を踏み出すことができるという側面も確かにあります。「進研ゼミ高校講座」では、進学教材や情報の提供を通じて、これからも高校生たちの夢の実現を支援していきたいと思えます。



ともに、戦う。合格まで。

★本調査結果の詳細：URL <http://www.benesse.co.jp/zemi/semi/why/index.html#investigation>株式会社ベネッセコーポレーション
広報部 担当:三田村、坂本、濱野、西沢
電話:042-356-0657 FAX:042-356-0722

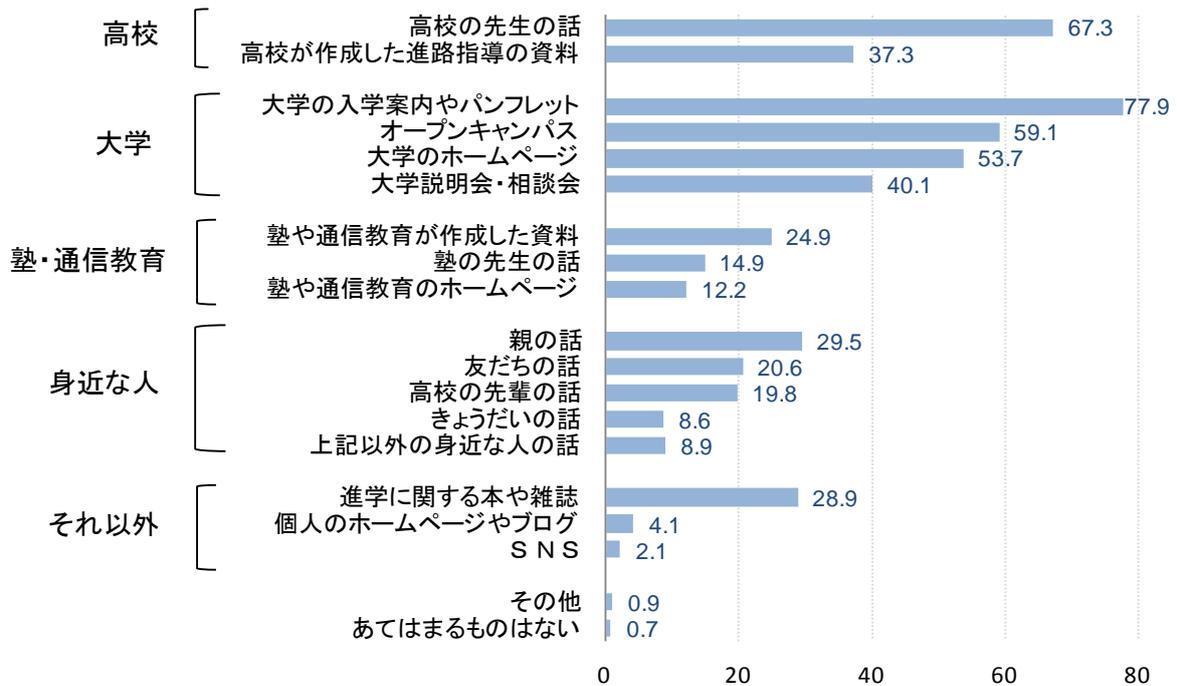
●調査概要

名称	大学進学振り返り調査
調査目的	大学に進学する高校生の進路選択の意識と実態を明らかにする。
調査内容	進路選択や大学受験の状況、進路選択の悩み、高校時代の夢や目標、夢や目標の宣言と宣言した相手、高校時代の学習の様子、大学進学の原因、大学選択で重視したこと、就職に関する意識など。
調査時期	2011年11月
調査方法	インターネット調査
有効回答数	<p>全国の4年制大学に通う大学1年生～4年生・1,500名。</p> <p>*「進研ゼミ」の元会員を調査母体に、全国の4年制大学に通う文系男子学生、文系女子学生、理系男子学生、理系女子学生をそれぞれ375名、合計1,500名を対象とした。</p> <p>*ここで言う「文系」「理系」の区分けは、登録時に大学生本人が申告した大学の学部（学群、学類）、学科（専攻、課程）、コースをもとに、弊社で分類を行ったものであり、調査対象の抽出にのみ使用している。</p>
回答者の特性	<p>1) 性別 男子 50.0%、女子 50.0%</p> <p>2) 学年 1年生 35.1%、2年生 25.0%、3年生 22.1%、4年生 17.7%</p> <p>3) 文理 文系 33.3%、どちらかという文系 8.6%、中間 6.7%、どちらかという理系 6.7%、理系 44.1%、どちらでもない 0.5%</p>

① インターネット利用の増加などによって、進路選択に関する情報は多くなっています。しかし、「自分の適性」や「つきたい職業」「学びたい専門分野」がわからないという悩みを持つ高校生は、半数を超えています。

大学が発信する情報を活用する割合が高い

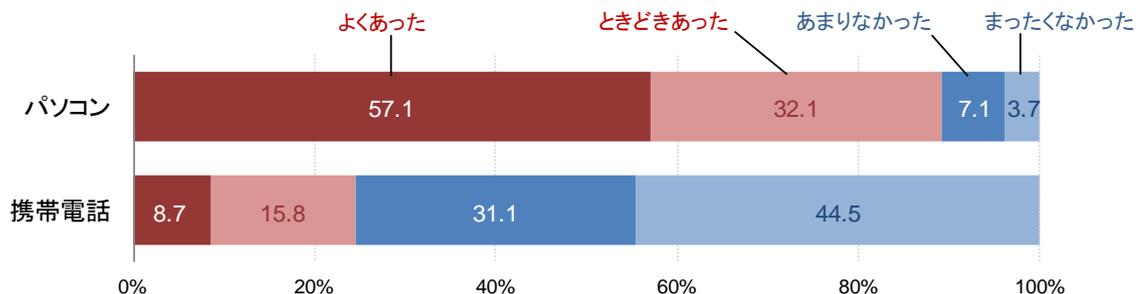
◆進路や志望大学・学部の情報源



※複数回答 (%)

9割の高校生がパソコンを利用

◆進路の情報収集でのパソコン／携帯電話の利用

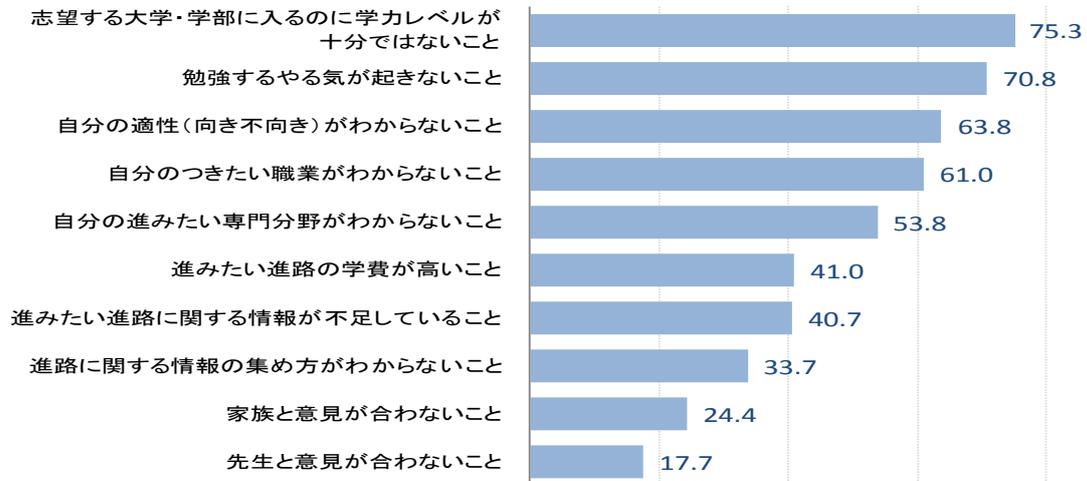


進路や志望大学・学部の情報源としては、「大学の入学案内やパンフレット」が77.9%でトップ。これに、「高校の先生の話」が67.3%で続く。全体に大学が発信する情報を活用する割合が高く、身近な人からの情報については「親の話」が29.5%いるが、全体に低い。

また、情報収集のツールとしてパソコンや携帯電話をどれくらい利用していたかたずねた結果では、パソコンについては9割が「あった」（「よくあった」と「ときどきあった」の合計）と回答しており、ほとんどの高校生がパソコンを利用していることがわかる。

適性やつきたい職業、学びたい専門分野がわからない悩みを持つ高校生は半数を超えている

◆進路選択の悩み



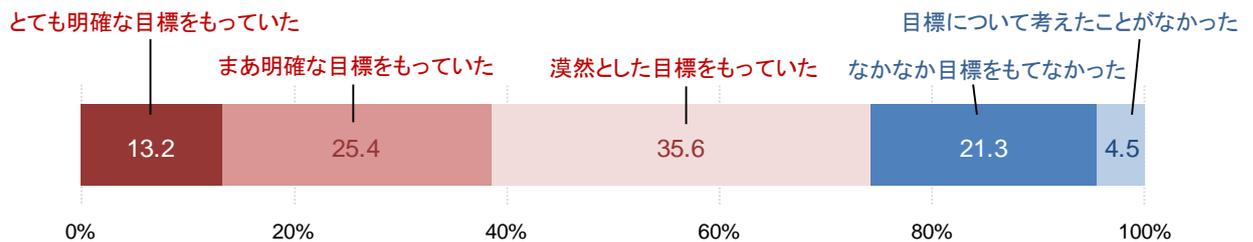
※数値は、「よくあった」と「ときどきあった」の合計 (%)。

進路選択における悩みのトップは、「志望する大学・学部に入るのに学力レベルが十分ではないこと」(75.3%)。「自分の適性(向き不向き)がわからない」や「自分のつきたい職業がわからない」「自分の進みたい専門分野がわからない」といった悩みも多く、いずれも5~6割に達する。

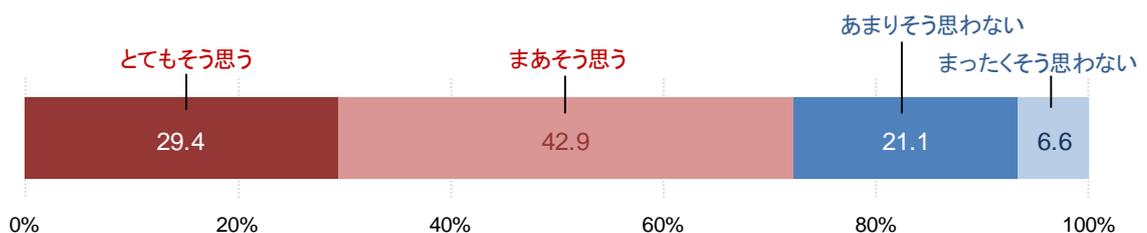
② 一方で、7割を超える高校生が「夢や目標」を持ち、約半数の高校生が、「夢や目標を宣言した」と回答しています。宣言の相手は、母親が8割で、学校の友だちがそれに続きます。父親は5割強となっています。

7割が「夢や目標を考えて大学を選択した」と回答

◆高校時代の夢や目標



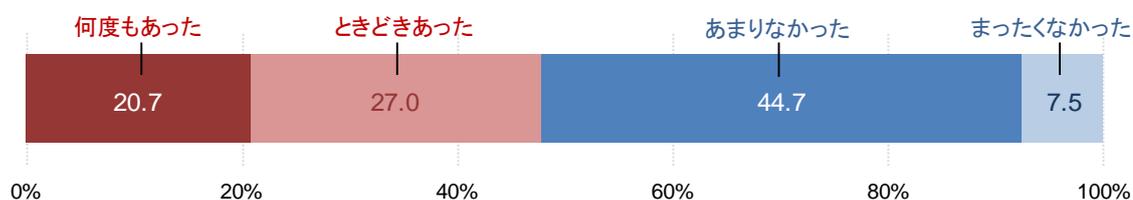
◆夢や目標を考えて大学を選択したか



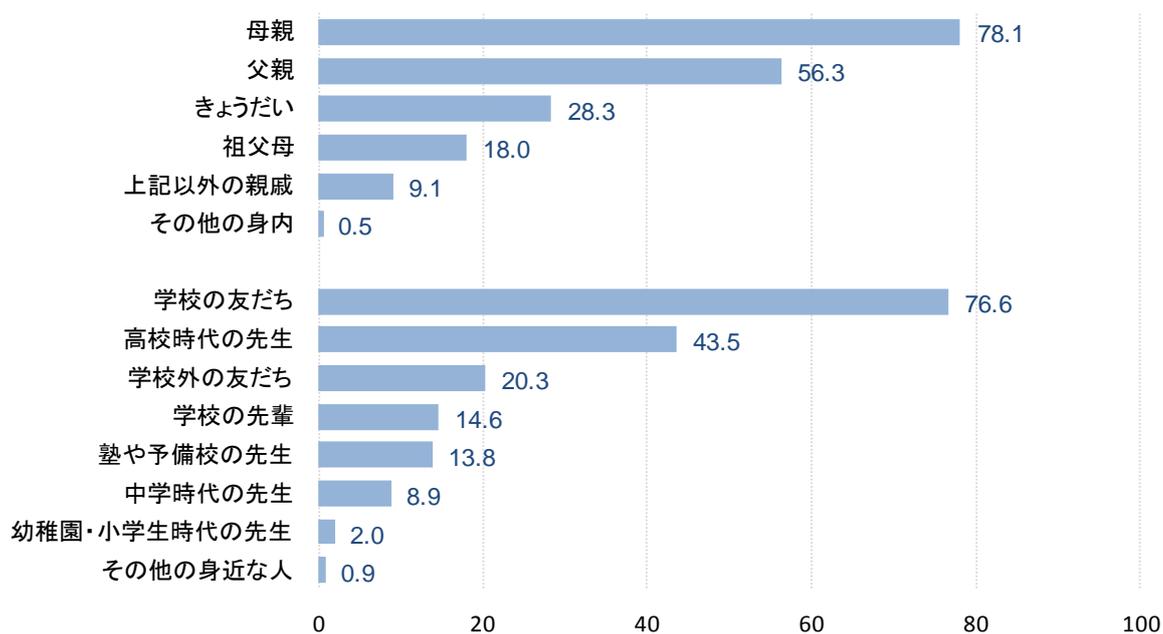
高校時代に「目標をもっていた」と回答したのは74.2%（「とても明確」＋「まあ明確」＋「漠然とした目標をもっていた」の合計）。また、「夢や目標を考えて大学を選択したか」という質問に肯定（「とてもそう思う」＋「まあそう思う」の合計）したのは、72.3%であった。

約半数が「夢や目標」を宣言したと回答。宣言相手は「母親」が最多。

◆高校時代に夢や目標を宣言したこと



◆高校時代に夢や目標を宣言した相手



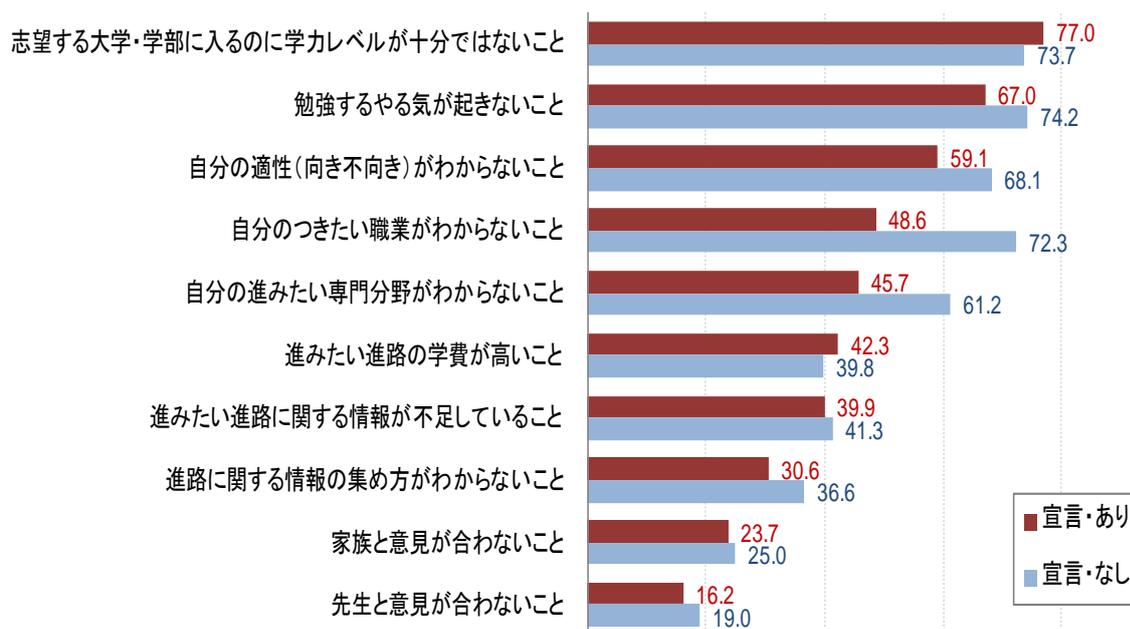
※複数回答 (%)。

およそ半分が、高校時代に夢や目標を宣言したことが「あった」（「何度もあった」＋「ときどきあった」の合計）と回答。宣言相手としてもっとも多いのは「母親」の78.1%で、「学校の友だち」が76.6%で続く。「父親」も56.3%と上位に選ばれており、親に夢や目標を宣言している高校生が多いことがわかる。

③ 夢や目標を宣言した高校生は、「自分の適性」に関する悩みが少なく、大学進学に明確な理由を持っています。逆に、宣言をしていない高校生は、「自分の適性」に不安をもち、大学進学についても、「周囲の人がみな行くから」「すぐに社会に出るのが不安だから」といった回答をする割合が高いことがわかります。

目標の宣言をした高校生は、「自分の適性」に関する悩みが少ない

◆進路選択の悩み

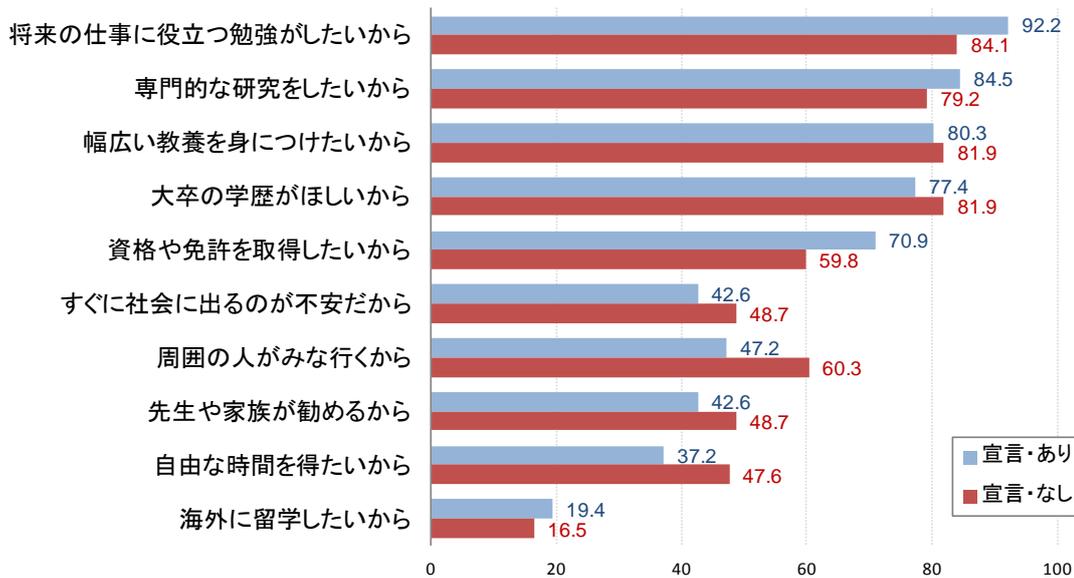


※「宣言・あり」は「高校時代に夢や目標を宣言したか」という質問に「何度もあった」「ときどきあった」と回答した者、「宣言・なし」は「あまりなかった」「まったくなかった」と回答した者を表す。

高校時代に「夢や目標を宣言したことがある」かどうかで進路選択の悩みをみたところ、「宣言・あり」の高校生は「自分の適性（向き不向き）がわからない」「自分のつきたい職業がわからない」「自分の進みたい専門分野がわからない」といった適性についての悩みが少ないことがわかる。

目標の宣言をした高校生は、大学進学に明確な理由をもつ

◆大学進学の原因



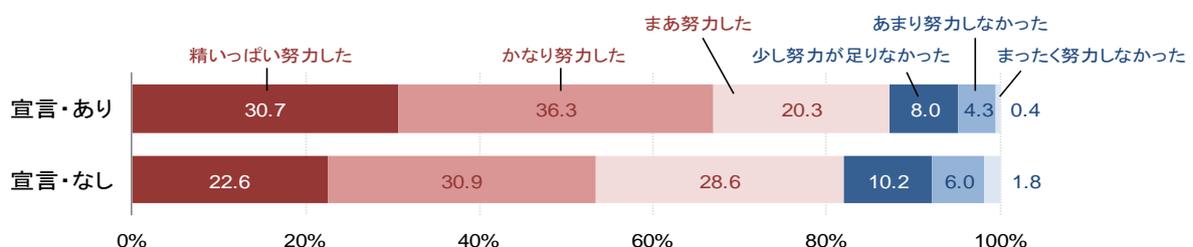
※「宣言・あり」は「高校時代に夢や目標を宣言したか」という質問に「何度もあった」「ときどきあった」と回答した者、「宣言・なし」は「あまりなかった」「まったくなかった」と回答した者を表す。

「宣言・あり」の高校生は、「将来の仕事に役立つ勉強がしたい」「専門的な研究をしたい」「資格や免許を取得したい」など、大学進学の原因が明確である。これに対して、「宣言・なし」の高校生は、「すぐに社会に出るのが不安」「周囲の人がみな行くから」「自由な時間を得たいから」といったモラトリアムの傾向が強いことがわかる。

④ 夢や目標を宣言した高校生は、受験で努力した割合が高く、大学進学時の満足度が高くなっています。明確な目標設定によるスムーズな進路選択と努力の結果、「満足だった」と感じる割合が高いものと推測されます。

目標の宣言をした高校生は、受験で努力した割合が高い

◆大学受験での努力

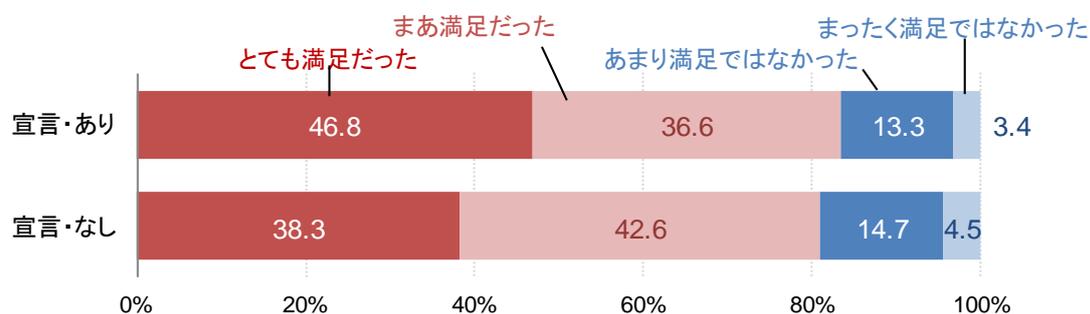


※「宣言・あり」は「高校時代に夢や目標を宣言したか」という質問に「何度もあった」「ときどきあった」と回答した者、「宣言・なし」は「あまりなかった」「まったくなかった」と回答した者を表す。

「宣言・あり」の高校生は、受験で努力したと回答する割合が高い。「精いっぱい努力した」と「かなり努力した」の合計は、「宣言・なし」53.5%に対して、「宣言・あり」は67.0%と10ポイント以上の差がある。

目標の宣言をした高校生は、大学進学時の満足度が高い

◆進学時の満足度



※「宣言・あり」は「高校時代に夢や目標を宣言したか」という質問に「何度もあった」「ときどきあった」と回答した者、「宣言・なし」は「あまりなかった」「まったくなかった」と回答した者を表す。

「宣言・あり」の高校生は、大学進学時の満足度が高い。スムーズな進路選択と努力の結果、「満足だった」と感じる割合が高いものと推測される。

■ベネッセコーポレーション進研ゼミ高校講座「攻める宣誓プロジェクト」について

高校生から自分の将来に向けた「攻める宣誓」を募集し、それを元に、このプロジェクトに共感したアーティストが“高校生への応援ソング”として楽曲を制作するという企画を軸に展開。今年で4年目を迎え、これまでに約6万人の高校生が参加し、目標を宣言しています。

今年の「攻める宣誓プロジェクト」で高校生からのメッセージを元に楽曲を制作したのは、圧倒的な存在感でミュージックシーンをけん引し続けるロックバンドの **ASIAN KUNG-FU GENERATION**(アジアン・カンフー・ジェネレーション)です。彼らが作り出す応援ソングを受けた高校生が、意思を持ってひたむきに、高い目標に向かって攻めていけるように、という思いを込めて本プロジェクトのアーティストに選定しました。

「攻める宣誓」に応募した高校生全員に、「宣誓を叶える勉強法」情報誌と、「厳選！入試直結問題集」のプレゼントを差し上げます。さらに抽選で、「マーチングバンド」の「攻め歌着うた®」や、ASIAN KUNG-FU GENERATION による学校ライブも当たります。

サイト情報

「攻める宣誓プロジェクトサイト」 （「攻める宣誓」で検索）

- ・ウェブサイト : <http://www.benesse.co.jp/zemi/semi/>
- ・モバイルサイト : <http://www.jadm.jp/semi/>